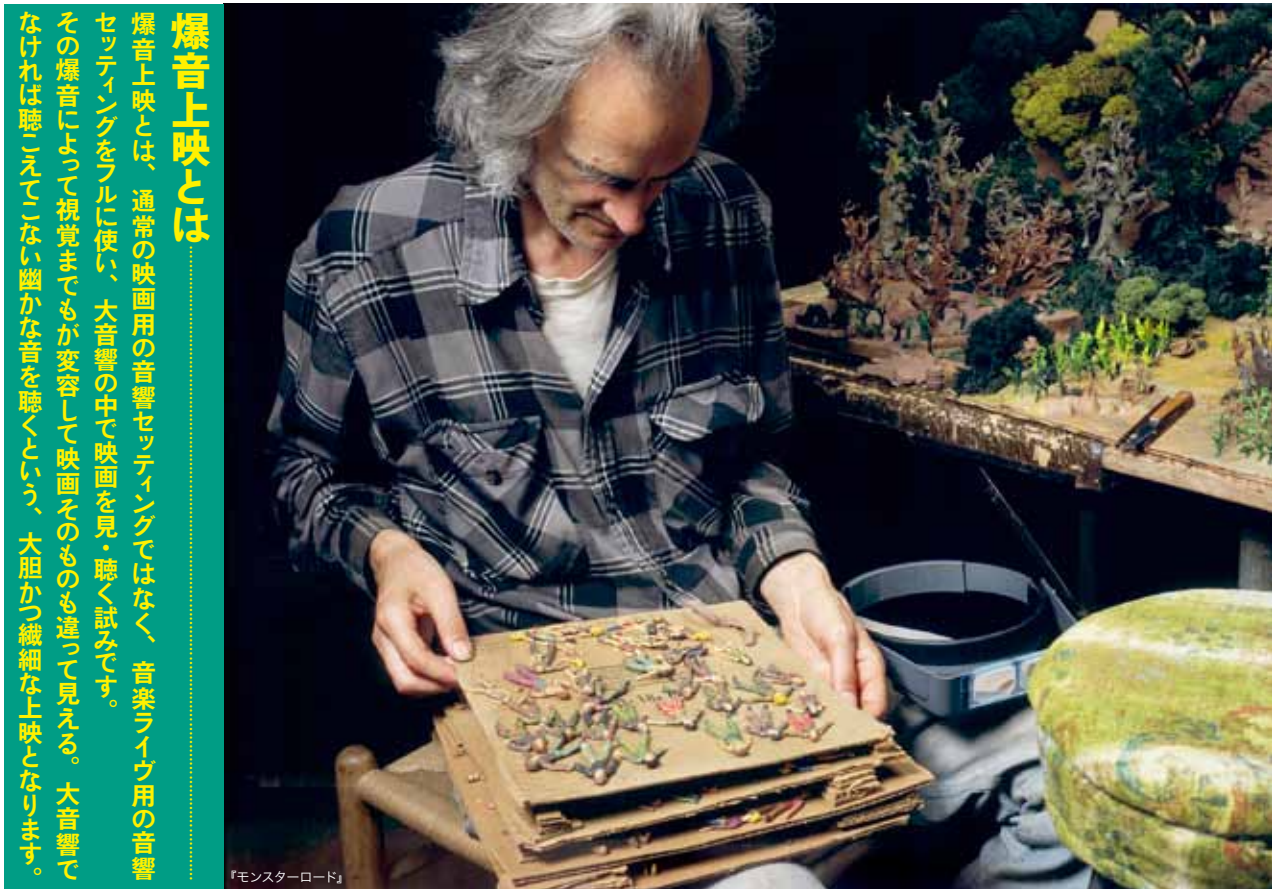


爆音映画祭 in 関西 [京都編]



爆音上映とは
 爆音上映とは、通常の映画用の音響セッティングではなく、音楽ライブ用の音響セッティングをラルに使い、大音響の中で映画を見・聴く試みです。
 その爆音によって視覚までもが変容して映画そのものも違って見える。大音響でなければ聴こえない幽かな音を聴くという、大胆かつ繊細な上映となります。

上映スケジュール ポイントを押めて素敵な特典をGETしよう!!

爆音映画祭 in 関西 [京都編]

7月10日(木) **7月11日(金)**
 15:00 開場 15:00 開場
 15:30 『スチームボーイ』 15:30 『AKIRA』
 18:00 開場 18:00 開場
 18:30 『AKIRA』 18:30 爆音プリート・パルン

会場: 同志社大学寒梅館ハーディーホール
 料金: 当日 1500円、Hardience 会員・前売 1300円
 ※同志社大学学生・教職員 (同志社内諸学校含む) 無料
 主催: 同志社大学今出川校地学生支援課 共催: boid 協力: CALF

アメリカン・インディペンデント、野生のアニメーション

7月8日(火)
 17:00 開場
 17:30 トーク: 土居伸彰氏 (アニメーション研究・評論、CALF)
 上映「アメリカン・インディペンデント短編集」
 19:10 休憩
 19:20 『モンスター・ロード』 (終了予定 20:40)

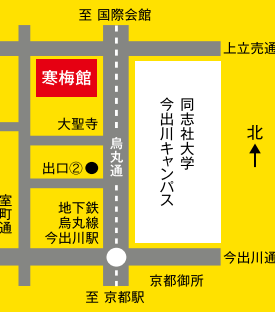
会場: 同志社大学寒梅館クローバーホール
 料金: 当日 1000円、前売 800円
 ※同志社大学学生・教職員 (同志社内諸学校含む) 無料
 主催: 同志社大学今出川校地学生支援課 共催: CALF
 ※このプログラムは爆音上映ではなく、通常音量での上映となります

前売: e+イープラス <http://eplus.jp/bakuon/> 6月10日より発売開始

同志社大学寒梅館 ハーディーホール/クローバーホール

お問合せ: 同志社大学今出川校地学生支援課
 京都市上京区御所八幡町103
 Tel: 075-251-3270 Fax: 075-251-3099
 E-mail: ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp

地下鉄今出川駅下車、②番出口より北へ60m程。
 駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。



会場……同志社大学寒梅館
 ハーディーホール/クローバーホール
Bakuon Film Festival in Kyoto, Kansai 2014



アニメーション
 スペシャル!

©大友克洋・マッシュルーム・STEAMBOY 製作委員会

7月8日(火)
 GEORAMA 関連企画
 アメリカン・インディペンデント、野生のアニメーション
 7月10日(木)~11日(金)
 『スチームボーイ』
 『AKIRA』
 爆音プリート・パルン



©1986 アニメーション映画製作委員会

爆音映画祭 in 関西 [神戸編]
 7/19(土)~25(金) ※火曜休映
 GEORAMA2014も同時開催 7/18(金)~25(金)
 神戸アートビレッジセンター
 『ブルーベルベット』 Image courtesy of MGM/Park Circus.



『モンスターロード』

爆音映画祭 in 関西

【京都編】



『スチームボーイ』
Steamboy
2003年/126分/日本/35mm
監督：大友克洋 声の出演：鈴木杏、小西真奈美
18世紀半ば、ワットが開発した新方式の蒸気機関に込められた夢と希望。今なお未来であり続けるその「蒸気機関」の音が、2014年に鳴り響く。それはどんな未来を見せてくれるだろう？

©大友克洋・マッシュルーム / STEAMBOY 製作委員会



©1988 マッシュルーム/アキラ製作委員会

『AKIRA』
1988年/124分/日本/35mm
監督：大友克洋 声の出演：岩田光央、佐々木望
破壊と創造の、死と誕生のコントラストが鮮明に力強く響く。2020年東京オリンピック開催の風景を幻視する、ネオトーキョー2019年の音。

爆音プリート・パルン

エストニアのみならず世界のアニメーション史に君臨するプリート・パルンの代表作を、初の爆音上映。公私にわたる新たなパートナー、オリガ・パルンとの共同監督作品『ガブリエラ・フェリなしの人生』『雨のダイバー』は、セリフの排された静寂の音響空間に、官能的かつ破壊的なサウンドトラックが稲妻のように侵入し、別離の物語のテンションを高めます。エストニア独立後に発表された『ホテルE』は、いつまでも冒頭だけを繰り返すベートーヴェン「第九」をベースとする音響が、来たるべき「バラ色」の市場経済社会への期待と、悲惨な末路を同時に予感させます。アニメーション界のゴダールと呼ばれることもある彼の作品の爆音は、作品に内包される複層性を可聴化します。



『ホテルE』 Hotel E (1991年/29分)
人々を分け隔てる壁には、ドアが必ずあるものだ。そのドアは隔てられたものをつなげる。ヴィクトルはそのドアを見つけた。顔も名前もないヴィクトルには、行く準備が出来ている。あらゆる立ちは到着でもある。だが、あらゆる到着は、帰還ではない。ヴィクトルが始めてしまったのは危険なゲームなのだ。

アニメーション・リアル

昨年末に大ヒットした『ゼロ・グラビティ』の中で、主演のひとりジョージ・クルーニーは最後まで宇宙服を脱がなかった。ヘルメット越しのゆがんだ顔と宇宙服でしかない何者かを、私たちは「ジョージ・クルーニー」だと認識し、しかも感情移入もしつつ映画を観た。これは一体どうしたことか。CGやアニメーションの技術の進化とももちろん関係はあるが、しかしそれ以上に、映画を観る私たちの視覚や認識方法が、どこか根本的に変容しつつある、そんな気がしてならないのだ。目の前にあるもの、目の前でうつされているもの、リアルと非リアル、オリジナルとコピーなど、あらゆるものが境界をあいまいにしたまま溶け合っていく。現実の事件は映画の物語のようになり、映画館ではドキュメンタリー作品がかつてないほど上映されている。アニメが実写のように見え、実写がアニメーションのようにも見える。

私たちが暮らすこの現実の肌触りの実感は、多くの方が共有できるものではないかと思う。だから今、アニメーションを観ることは、大きな変容を遂げようとしている現実の柔らかな皮膚に溶け合うことであり、自身と非自身との境界をあいまいにさせることなのだと思う。単に映画を観るだけなのだが、それゆえに私たちもこの現実へ、そして世界のどこかへと溶け合っ、かつてない体感を得る。そしてそれを爆音がさらに後押しする。絵と音もまた溶け合っ、私たちは絵を聴き、音を観ることもなるだろう。世界のアニメの最前線と日本のアニメの金字塔を集めた今回の特集は、そんな果てしなく不安定な世界への扉を開け、その向こうへと一歩踏み出す試みとなるはずだ。現実という柔らかな肌の中へと。



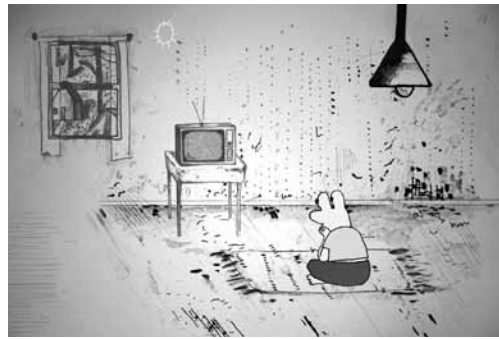
『モンスターロード』



『ガブリエラ・フェリなしの人生』
Life without Gabriella Ferri
(2008年/44分/共同監督：オリガ・パルン)
愛、閉じたドア、目障りな泥棒、傷ついたコウノトリ、失われたノートパソコン、ヴァーチャル娯楽オーケイ・シスターズ…そういったものについてのドラマティックな物語。ガブリエラ・フェリは見つからないが、ハッピーエンドのようなものは迎える。



『雨のダイバー』 Divers in the Rain
(2010年/23分/共同監督：オリガ・パルン)
昼のダイバーと夜の歯医者者の物語。二人のキスはいつもお別れのキス。男はダイバーなので潜水せねばならない。女は仕事に疲れ眠らねばならないが、しかし夢に静かな場所はない。客船は雨のなかゆっくりと沈んでいく。最後のタバコの時間を誰も分らない。



GEORAMA 関連企画

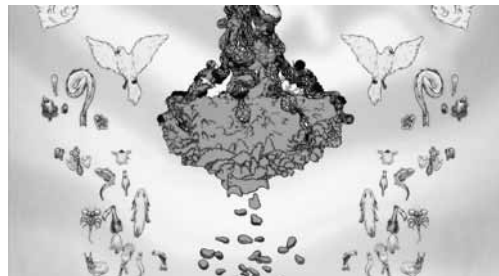
アメリカン・インディペンデント、野生のアニメーション

映画祭を中心としたヨーロッパのシーンからも、ハリウッドを中心とした商業シーンからも距離を置いたアメリカのインディペンデント・アニメーションは、それらのコミュニティで無意識的に共有される「伝統」を共有していないがゆえに、ときに驚くような未知の可能性を発掘してしまいます。そういった作品は、まさに、「野生のアニメーション」と呼ぶにふさわしいものです。それらの作品が持つ手触りは、アニメーション表現としての優劣という基準を超越して、アメリカの日常の空気を存分に吸い込んだものにもなっています。これまで日本ではあまり顧みられてこなかったアメリカのインディペンデント・アニメーションの達成を、主に2000年代以降に注目して総括するこのプログラムでは、郊外生活の荒廃と孤独、自然との交感など、さまざまなアメリカの「いま」が見えてきます。

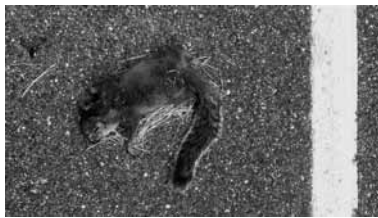
このプログラムは爆音上映ではなく、通常音量での上映となります

第一部 | アメリカン・インディペンデント短編集

新しいアニメーション・フェスティバル GEORAMA で大きな話題を呼んだ『コンシューミング・スピリッツ』の作者クリス・サリバンの初期作品や、その弟子ショーン・バッケリューによる衝撃作『アナザー』を中心に、小さなコミュニティのなかで繰り返される、「世界」「社会」についての変容する思考としてのアニメーションのオムニバス。

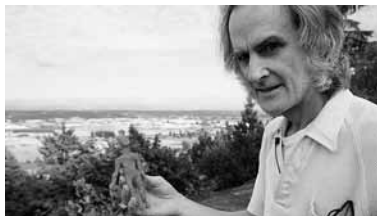


上映作品：『イカロスの失墜の風景』（クリス・サリバン、23分、1992年）、『アナザー』（ショーン・バッケリュー、17分、2013年）、『リジェクトド』（ドン・ハーツフェルト、2000年、9分）など



第二部 | ブルース・ビックフォードと『モンスターロード』

フランク・ザッパのお抱えアニメーターとして伝説化するクレイ・アニメーション作家ブルース・ビックフォードについてのこのドキュメンタリーは、シアトルの山奥に隠り、痴呆症の父親の看護をしながら、誰に見せるわけでもなく日々淡々と撮影を続ける彼の姿を追う。その背後に見えてくるのは、戦後アメリカの破れた夢の残骸。



上映作品：『モンスターロード』（ブレット・イングラム、80分、2004年）『このマンガはお前の脳をダメにする』（ブルース・ビックフォード、5分、2008年）